

飛鳥駅周辺地区まちづくり基本構想

平成29年6月

目次

1. 構想策定の背景と目的	1
2. 明日香村の概要	2
3. 飛鳥駅周辺地区の位置づけ	14
4. 飛鳥駅周辺地区の現状と課題	15
5. 地区の現状と課題を踏まえた飛鳥駅周辺地区のまちづくり基本方針	20
6. 飛鳥駅周辺地区まちづくりイメージ	21
7. 飛鳥駅周辺地区まちづくりでおこなう事業（案）	22
8. 飛鳥駅周辺地区まちづくり構想図	23

1. 構想策定の背景と目的

1400年前、我が国初の都が築かれた明日香村には、我が国が律令国家としての体制を整えていった歴史を解明する上で欠くことのできない貴重な文化財が数多く分布している。これらの文化財を守り伝えるため、これまで発掘調査や文化財の指定、さらには「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」や「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」などにより歴史的風土の保存を進めてきた。

一方、観光の側面では、観光客の停滞・伸び悩みという課題もみられる。その背景には、古代の遺跡という大きなインパクトがあるなかで、その魅力的な文化財が、十分に活かされていないことがあげられる。

さらに、明日香村の歴史文化の保存を担うことが期待される若者・子どもが減少している。近年、全国的に少子高齢化が進むなかで、明日香村ではその傾向が極めて顕著にみられる。理由の一つは、規制により、居住するための空間が少ないこと、また、生活をしていくための生業となる産業が村内で発展していないことがあげられる。このことは、各大字で受け継がれてきた祭りや行事が継続困難となったり、歴史的な風情を醸し出す建物が空き家となったり、世界に誇る貴重な文化財と一体となってその魅力を高める山林や農地が荒廃してしまったりという形で顕在化してきている。

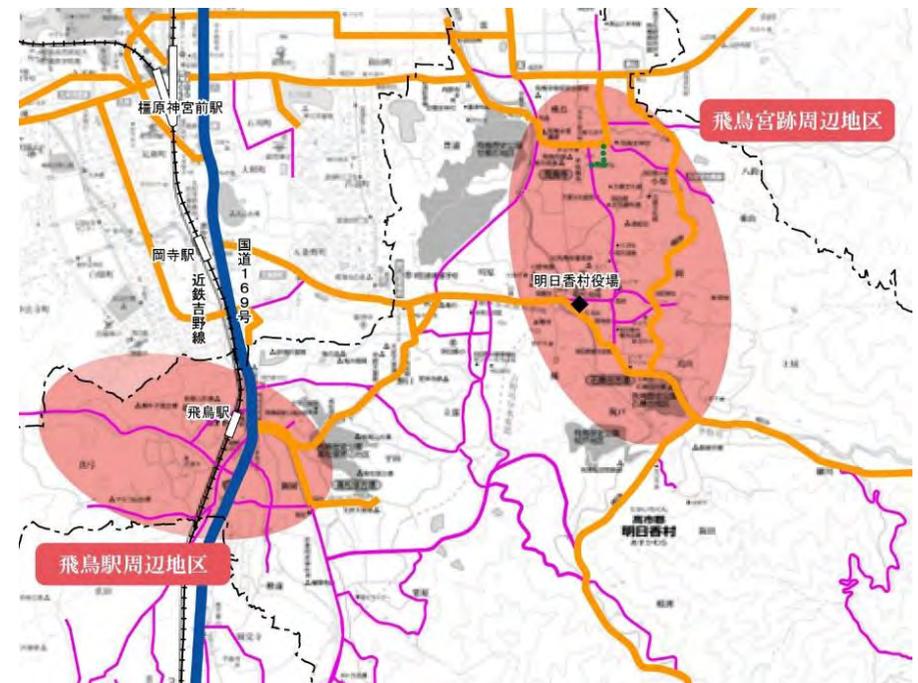
このような大字で受け継がれてきた文化財やその周辺環境は、大字住民の地域への誇りや愛着を育む拠り所となるものであることから、それらが失われることにより、益々人口の減少や若者の流出が進み、地域の活力を低下させる一因となっている。

よって、古代の遺跡に抱かれながら、この“あすか”の地で生活を続けてきたことは、他都市にない大きな特色であり、そのなかで育まれてきた歴史や文化、基幹産業などにも光を当て、遺跡等と関連付けながら、その魅力を多様化し、より一層の観光振興を図っていくことで地域の活性化を図ることが重要である。

そこで、ほぼ全域に文化財が眠り日々発掘調査が行われている村全体を博物館ととらえ、美しい景観、豊かな自然、安全でおいしい農産物、人々の多様な活動など村の魅力のすべてを活かして訪れる人をもてなす村づくりを目指す「まると博物館づくり」を推進するため、県と連携しながら明日香村のまちづくり基本構想を策定するものとする。

明日香村まちづくり基本構想は、明日香村が有する文化財や景観などの地域資源を最大限に活かし、それらの資源を一層、磨きあげることを通じて、各地区が魅力あふれる暮らしやすい地域へと発展していくことを目的として、基本的なまちづくりの考え方や今後の重点的な取組を示す道筋を示すものである。

この構想では、「飛鳥宮跡周辺地区」ならびに「飛鳥駅周辺地区」をモデル地区として、地区の課題を踏まえ、生き生きした地域を育み、展開していくことを目指す。



2. 明日香村の概要

(1) 村の上位計画

1) 第4次明日香村総合計画（平成22年～31年）

◆村の将来像

『古都の風格を育み、住む喜びと新たな魅力を創造する—明日香を「感じ」「知り」「守り」「育てる」むらづくり』

◆戦略的施策

村づくりのエンジンとなる施策の分野 ～ 世界に誇る「文化財」、明日香法や村民の努力により守られてきた「景観」、それらを支えてきた「農」、これらすべてを経済活動の活性化につなげることのできる「交流産業」～ を「戦略的施策」として位置づけ、これら「農」「文化財」「交流産業」「景観」の魅力高め、『「明日香」を感じることができる、もてなしの村づくり』を進める、つまり「まるごと博物館構想」※を推進することで、交流人口・定住人口の増加と地域経済の活性化を目指す。

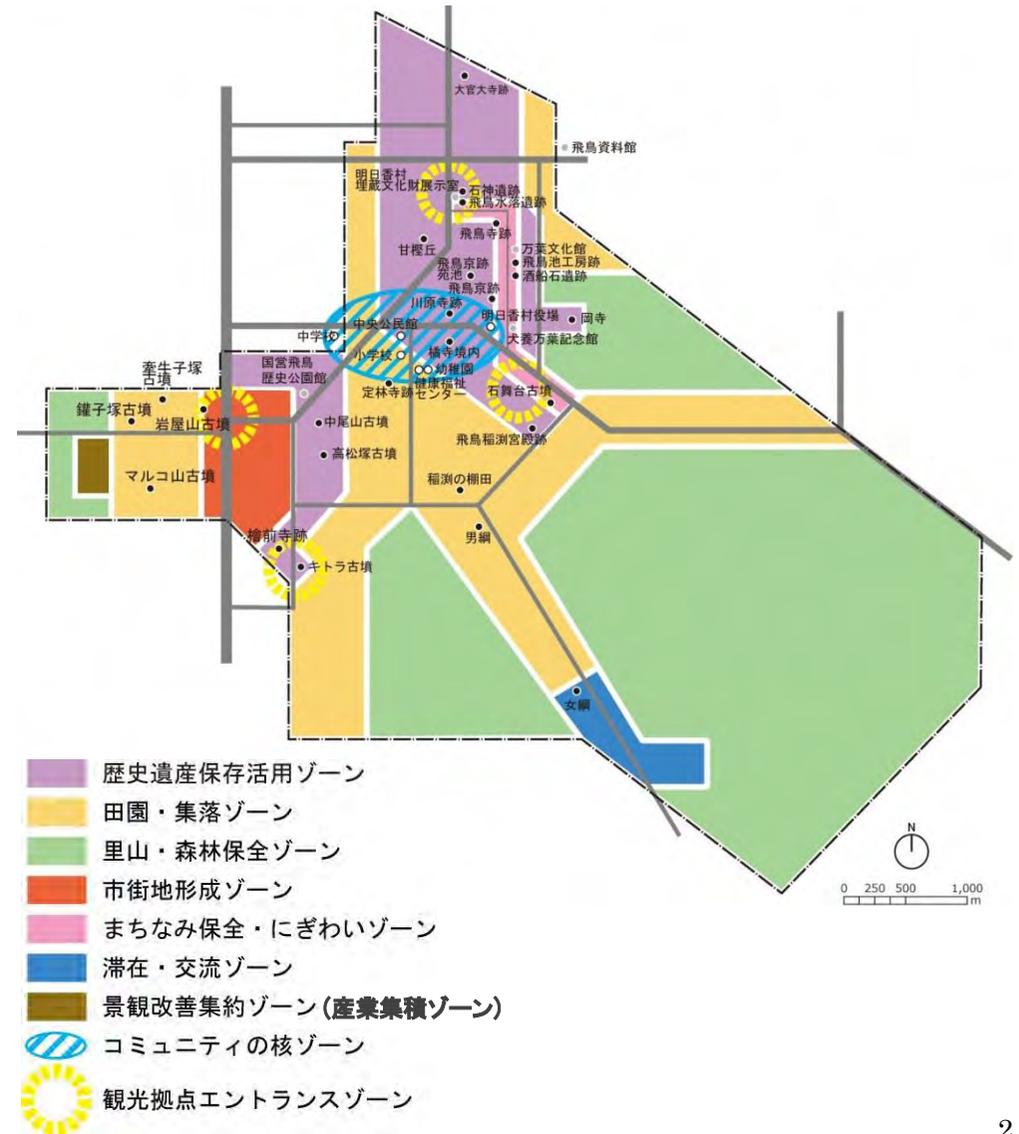
◆基本施策

安全・快適で生き活きとした暮らしをつくり、村づくりの主役である人を守り育て、活力ある産業・地域社会を形成し、住民が心から『住む喜びと誇りを感じられる村づくり』を進める。

※「まるごと博物館構想」

ほぼ全域に文化財が眠り日々発掘調査が行われている本村は、それだけでももう村全体が博物館といえるが、美しい景観、豊かな自然、安全でおいしい農産物、人々の多様な活動など村の魅力のすべてを活かして訪れる人をもてなす村づくりを目指す「まるごと博物館構想」を推進する。

◆全体の土地利用方針図



2. 明日香村の概要

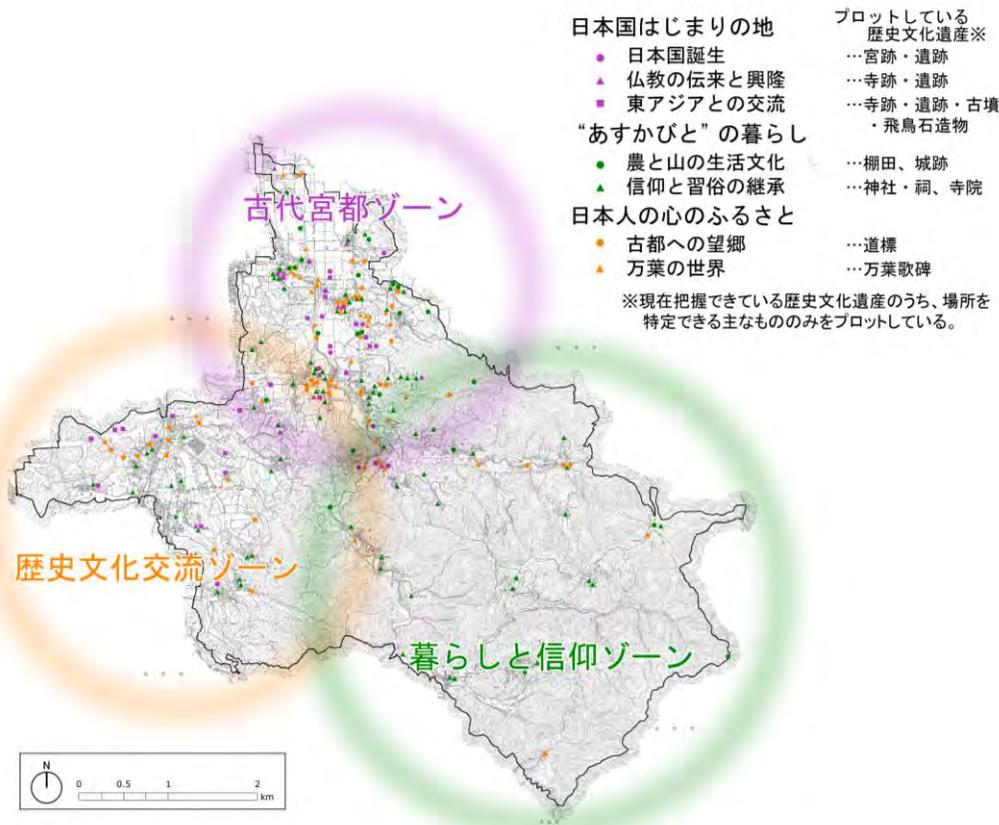
2) 明日香村歴史文化基本構想（平成27年策定）

「明日香まるごと博物館づくり」の理念を具現化し、その推進を支援するとともに、飛鳥・藤原の包括的保存管理計画と連携を図り、世界遺産の登録に向けた取り組みを後押しするなど、歴史文化を活かしたむらづくりの各種取り組みを具体化する。

◆基本理念

「美し “あすか”」を学び、育み、活かす

◆歴史文化保存活用区域のゾーン区分



3) 第4次明日香村整備計画（平成22年～31年）

◆基本理念

6世紀末から7世紀末にかけての約100年の間、おおむね明日香村の区域内において都が営まれた。

また、この地で律令が初めて制定されるなど、明日香村は我が国の古代国家体制が形成された地であるとともに、中国や朝鮮半島など東アジア文化の影響を受け飛鳥文化が開花した地域である。

明日香の価値はまさにこの歴史そのものであるが、明日香を訪れた誰もがその価値を体感し回想することは出来ないのも事実であることから、明日香における歴史展示の推進を図ることが必要である。

また、歴史的文化遺産と周辺の環境が一体となった他に類例を見ない貴重な明日香の歴史的風土については、明日香村特別措置法等の規制により概ね良好に守られてきたが、個別に散見される問題への対処や、住民参画の推進とともに国民の理解協力と参加、また地域の自主的・自立的な取り組み等により、歴史的風土の維持・向上を図ることが必要である。

一方、人口減少に代表される地域活力の低下は、明日香村にとっての最大の課題である。

地域活力を向上させるためには、明日香の持つ価値である「歴史」及び「歴史的風土」をこれまで以上に活かした取り組みが必要である。

このため、歴史的風土を形成する重要な要素である「農」空間の維持・再生を図るとともに、歴史展示の推進により明日香の魅力発信等を行うなど、観光・交流振興の取り組みが求められる。

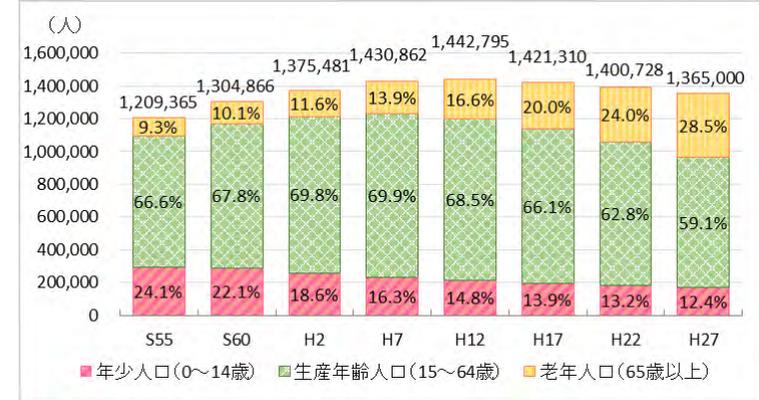
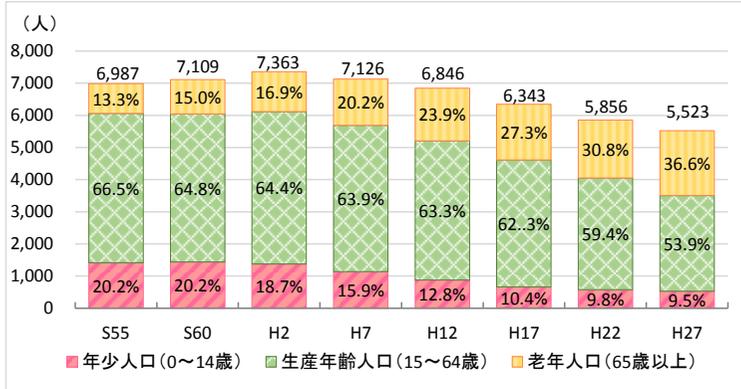
これらの取り組みにより、村民が住むよろこびを感じ、また村外の方々が住みたくなるような村づくりを行い、明日香村の地域活力向上を図る。

2. 明日香村の概要

(2) 村の人口

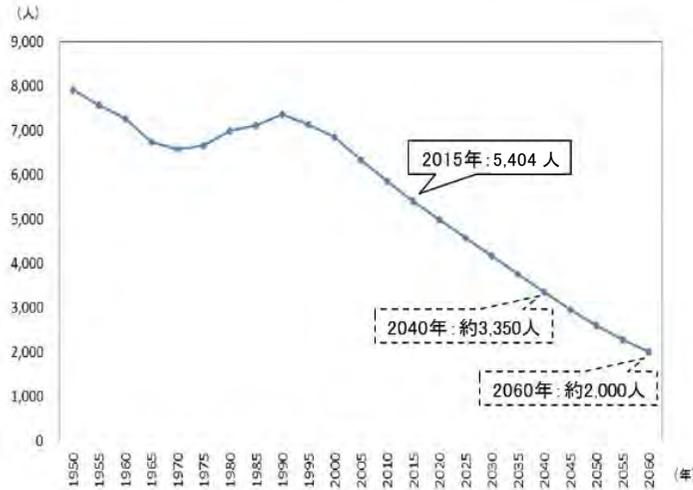
- 明日香村では、60歳代の層の人口が最も多い。一方で、団塊ジュニア世代の人口が少ないのが特徴であり、また、年少人口も少ない。
- 村の総人口は、平成2年をピークに人口減少傾向。

- 奈良県全体と比較しても少子高齢化傾向が著しい。
- 高齢化が進み36.6%。(H27年国勢調査)
- 平成27年国勢調査では年少人口が急激に減少して9.5%。



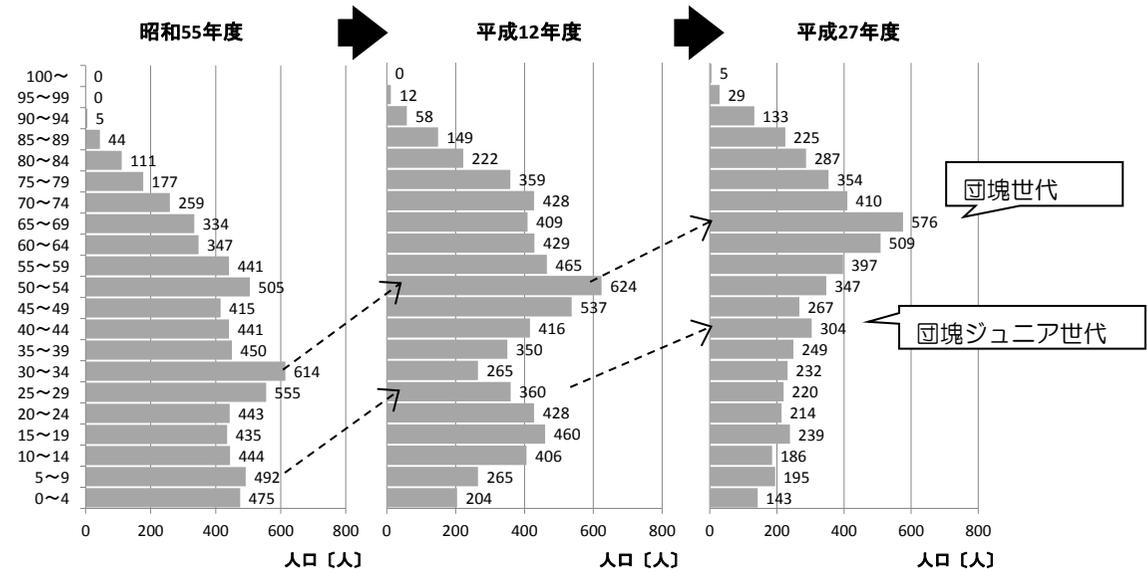
明日香村の人口動態 (出典：国勢調査)

奈良県の人口動態 (出典：国勢調査)



明日香村の将来人口の推移

(出典：国立社会保障・人口問題研究所)



明日香村の年齢別人口の推移

(出典：国勢調査)

2. 明日香村の概要

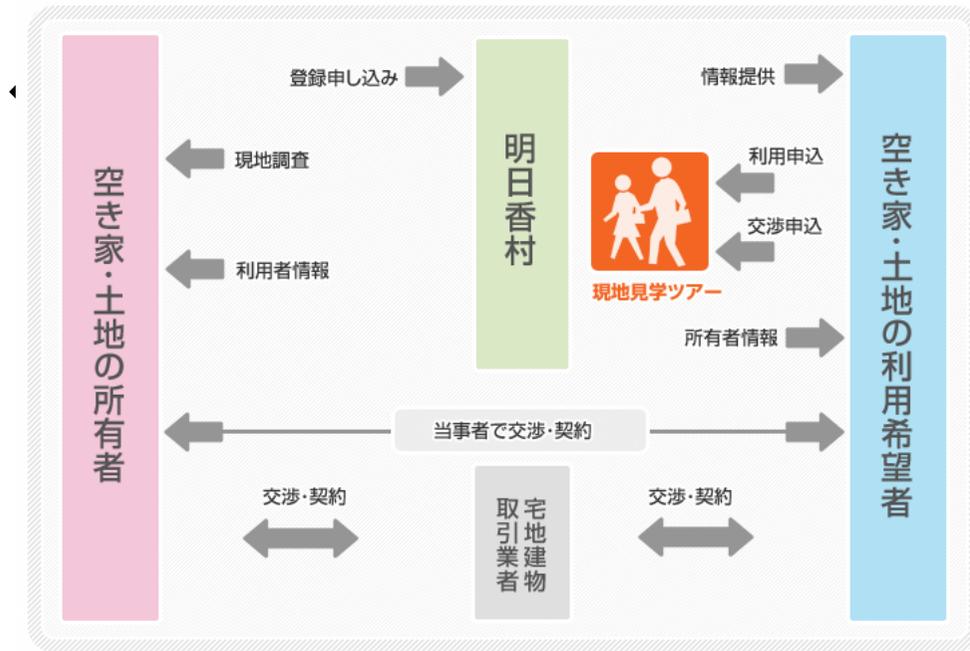
(3) 空き家の状況

明日香村内における空き家等の実態調査によると、外観調査で108軒の空き家が存在することが確認されている。

◆空き家等活用バンク制度の取組

明日香村では、空き家等活用バンク制度により、空き家活用に関する情報収集や啓発活動の推進、空き家改修等に対する支援を行っている。

また、人口誘導施策に関する情報として定住希望者への空き家等の紹介をはじめ、新規就農希望者には、農地・居住確保に関する情報を、店舗・宿泊施設等観光関連サービスビジネスの出店希望者には、店舗として利用可能な空き家や土地の紹介を行っている。



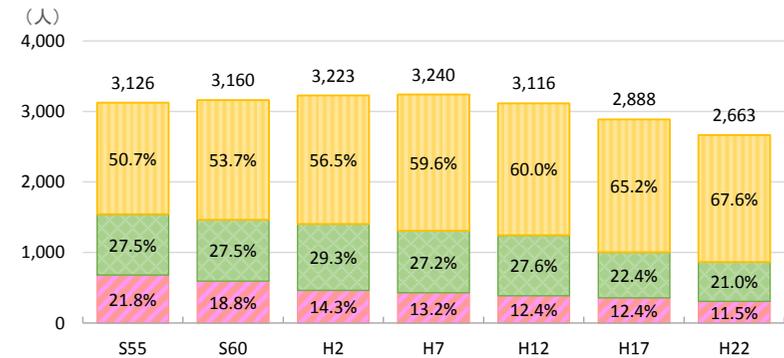
空き家等活用バンク制度の仕組み

(出典：明日香村資料)

(4) 産業動向

◆産業別就労者数

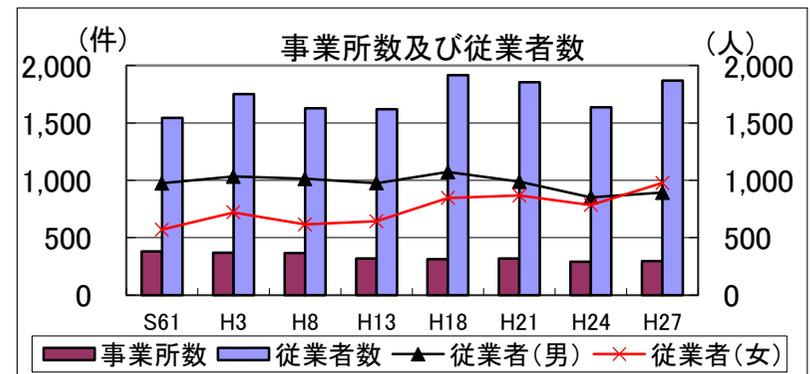
明日香村の産業別産業別就労者数を平成22年度国勢調査結果からみると、第3次産業就労者数が67.6%と最も多く、第2次産業就労者数は21.0%、第1次産業就労者数は11.5%となっており、人口減少や高齢化とともに就労者数全体も減少している。



産業別就労者数の推移 (出典：国勢調査)

◆事業所数及び従業員数

村内の事業所数は昭和61年からほぼ横ばいの状況が続いている。従業員数についても平成18年、21年をピークとしてほぼ横ばいの状況が続いている。

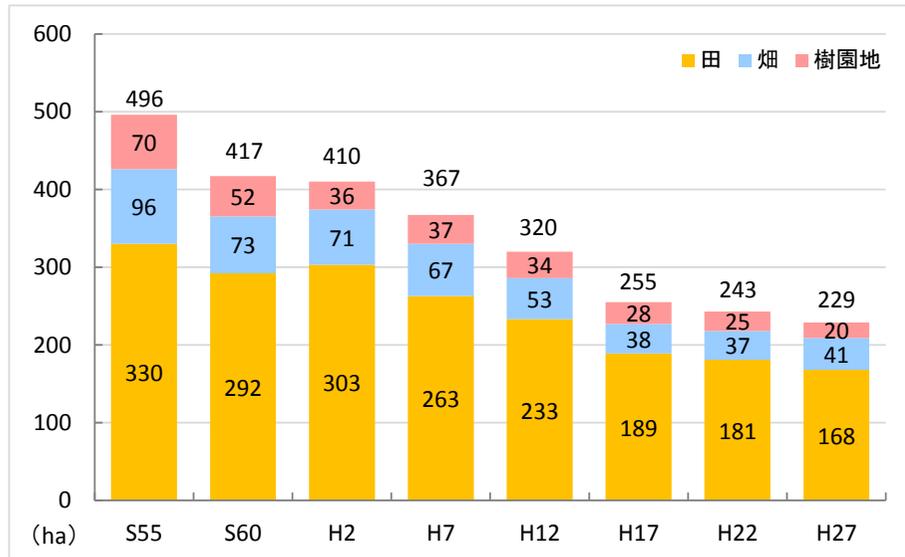


(出典：経済センサス)

2. 明日香村の概要

◆農業

山間に切り開かれた畑から谷間に続く等高線に沿って縞模様の造形美を造りだす棚田や、斜面に彩りを醸し出す果樹園、稲穂たなびく広がりのある水田が広がる。



農地面積の推移

(出典：農林業センサス)

水稲は、明日香村の主要作物であり、農業経営の基幹となっている。一方、都市近郊農地の有利性を活かしたイチゴ、トマト、軟弱野菜などの生産もみられる。

イチゴ栽培は、奈良県育成種「あすカルビー」が全面的に普及し、一部には高設栽培が導入され「いちご狩り農園」としてオープンし、週末になると県内外からの家族連れや団体客が訪れ、いちご狩りを楽しんでおり、村の観光産業のひとつとなっている。

◆農に関する取組

ア. 農林産物直売所

あすか夢販売所(平成17年(2005)3月31日)、明日香の夢市・夢市茶屋(平成18年(2006)4月1日)、あすか夢の楽市(平成21年(2009)12月16日)が設置され、いずれも多くのお客で賑わい、順調に売上額を伸ばしている。特に、あすか夢販売所と明日香の夢市では、近隣市町村のリピーターが多く、観光客以外のニーズにも応えている。



あすか夢販売所

イ. 集落営農組織等

真弓地区では、真弓集落営農組合において安全・安心に配慮して栽培された野菜等を、訪問者が畑から直接収穫する形で販売する「はたけの八百屋さん」を実施している。購入希望者は、採れ頃の野菜をインターネットで確認することができ、現地ではスタッフが農地まで案内し、収穫方法の手ほどきを行っている。



はたけの八百屋さん

ウ. あすかオーナー制度

明日香村では農を通じた都市との共生を提案し、負担と喜びを共に分かち合う「あすかオーナー」を募集している。また、棚田オーナー制度については、稲渚地区において、NPO法人明日香の未来を創る会が創設され、自立的な運営がされている。

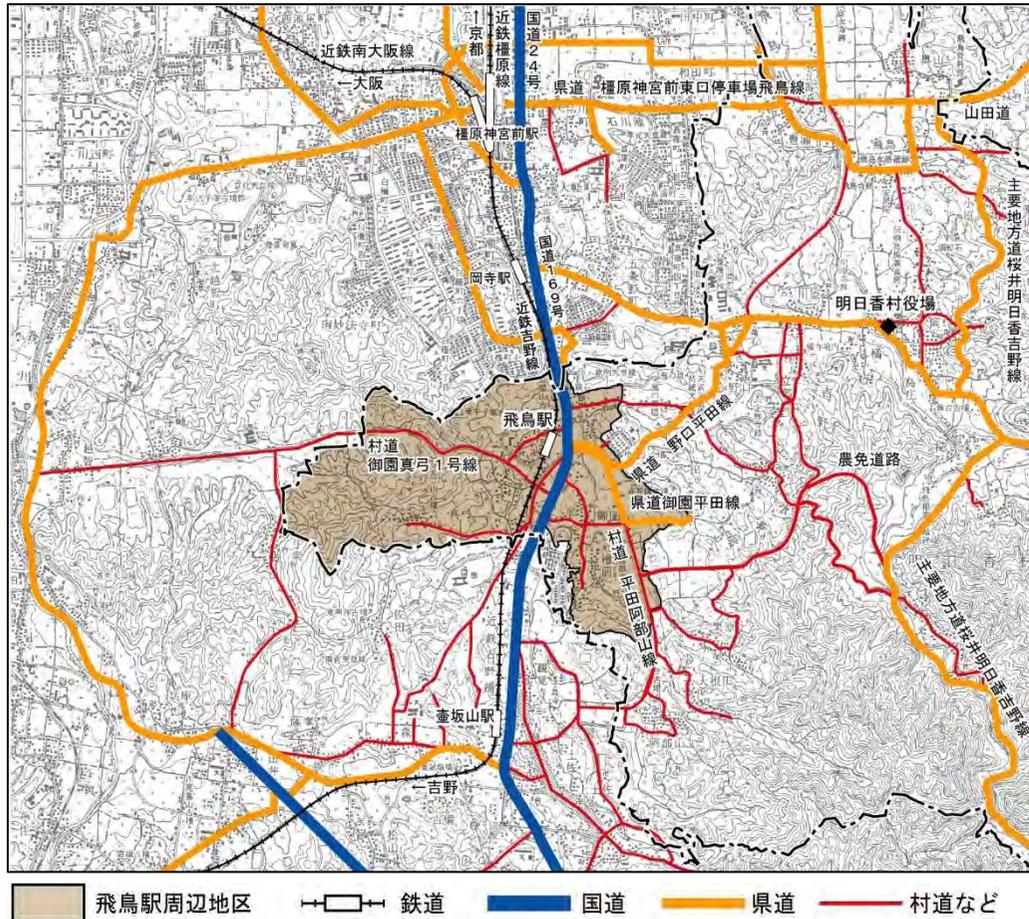


オーナー制度の活動風景

2. 明日香村の概要

(5) 交通

明日香村は、近鉄吉野線及び国道169号が村の西側を南北に通っており、これに県道、村道が繋がり道路網が形成されている



明日香村の交通体系

◆来訪手段

- 明日香村への村外からの来訪手段は、自家用車(約44%)が最も多く、次に鉄道を利用して「飛鳥駅で下車」(約38%)が続く。路線バスの利用者(約3%)は少ない。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
鉄道(飛鳥駅下車)	47.4%	55.6%	41.3%	33.3%	33.3%	35.0%	39.8%	38.0%
鉄道(岡寺駅下車)	0.0%	2.8%	3.3%	1.0%	2.7%	3.3%	2.0%	2.6%
路線バス(周遊バス)	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	1.3%	2.5%	9.2%	2.8%
観光バス・マイクロバス	26.3%	0.0%	4.3%	4.8%	5.3%	3.7%	7.1%	4.9%
自家用車(マイカー)	26.3%	33.3%	38.0%	47.6%	48.7%	51.9%	32.7%	44.3%
バイク	0.0%	2.8%	5.4%	0.0%	1.3%	0.4%	0.0%	1.3%
その他	0.0%	5.6%	7.6%	8.6%	7.3%	3.3%	9.2%	6.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(出典：2013年明日香村観光実態調査)

◆村内周遊手段

- 村内の周遊は、徒歩(51%)が最も多く、レンタサイクル利用(約21%)が続き、自家用車による周遊は約17%に留まる。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
周遊バス(かめバス)	0.0%	4.8%	1.8%	6.6%	2.8%	5.3%	14.2%	5.4%
観光バス・マイクロバス	0.0%	0.0%	0.9%	1.6%	1.7%	1.8%	3.5%	1.7%
自家用車(マイカー)	10.0%	4.8%	15.3%	17.2%	20.3%	19.9%	15.0%	16.8%
バイク	0.0%	2.4%	2.7%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.7%
レンタサイクル	30.0%	36.1%	36.0%	23.8%	18.1%	14.6%	6.2%	20.7%
徒歩	60.0%	49.4%	39.6%	46.7%	52.0%	54.1%	59.3%	51.2%
その他	0.0%	2.4%	3.6%	4.1%	4.0%	4.3%	1.8%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

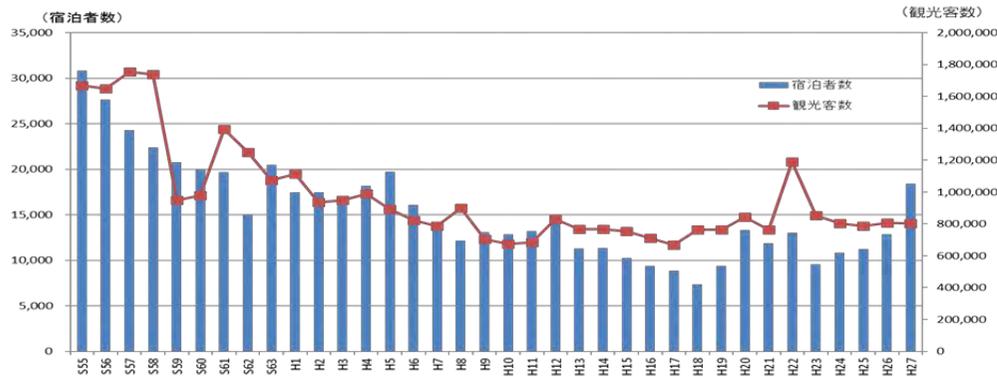
(出典：2013年明日香村観光実態調査)

2. 明日香村の概要

(6) 観光動向

◆入り込み客数

- 観光客数は昭和 57 年をピークに減少し、平成 26 年はピーク時の半分以下になっている。平成 22 年は平城遷都 1300 年事業(H22.4.24~11.7)で一時的に観光客は増えている。



- 村内宿泊者は、観光来訪者の約 1.6%で大半が日帰り観光となっている。
- 近年の宿泊者の増加は民家ステイ(教育旅行)の影響が大きい。
- 年間の観光動向をみると、春(4月~5月)および秋(9月~11月)に集中しており、特に5月が1年のピークとなっている。



※村観光施設(石舞台古墳、高松塚壁画館、飛鳥資料館、国営飛鳥歴史公園館、県立万葉文化館、亀形石造物、犬養万葉記念館、橘寺)における月別観光入込客数総計

(出典:明日香村資料)

◆取組

●飛鳥民家ステイ

- 明日香村では、体験学習のため学生を受け入れる「飛鳥民家ステイ」を行っている。農業や郷土料理作り体験などのほか、史跡めぐりや歴史探検ガイドツアーなど、飛鳥地域ならではのプログラムも充実している。
- 台湾やマレーシアなど海外からの受入れも積極的に行っており、平成27年度の民家ステイ利用者泊数は、4,250泊で、その内2,348泊は外国人学生である。



教育旅行の取組み

◆観光客の明日香村に対するイメージ

- 観光客が明日香村に持つイメージは、アンケート調査結果からは「古代史」が最も多く、その古代を象徴する「古墳」が続く。
- 基幹産業である農業を基盤とした「農村風景」や「緑豊かな景観」についても明日香村のイメージとして受け取られている。

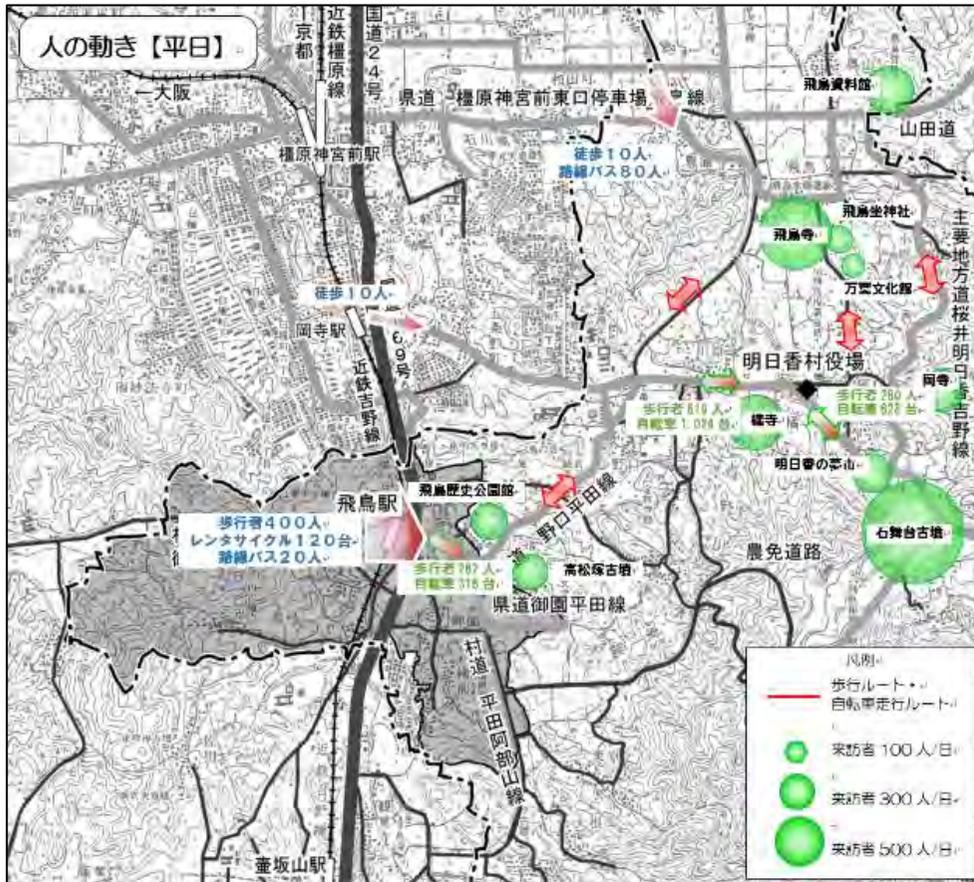
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
古代史	34.4%	30.1%	33.3%	33.5%	34.3%	34.2%	32.1%	33.2%
寺社	15.6%	8.8%	8.2%	9.3%	4.2%	6.2%	5.4%	6.9%
古墳	34.4%	39.7%	36.1%	33.0%	33.3%	29.0%	25.6%	31.9%
農村風景	6.3%	8.1%	6.6%	10.2%	12.3%	12.6%	16.1%	11.2%
緑豊かな景観	6.3%	11.0%	13.1%	11.2%	12.9%	14.8%	14.9%	13.3%
その他	3.1%	2.2%	2.7%	2.8%	2.9%	3.3%	6.0%	3.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(出典:2013年明日香村観光実態調査)

2. 明日香村の概要

◆観光客の動き

徒歩ならびに自転車による観光客の動きは、飛鳥駅からスタートし、石舞台古墳周辺及び飛鳥寺周辺を目的地としての動きが多くなっている。



歩行者・自転車の走行ルートと来訪者数

出典：2013年明日香村観光実態調査

◆観光マイカーの動き

マイカーによる観光客の動きは、国道169号線から県道を経由し、石舞台古墳周辺を目的地とする動きが最も多い。



車の走行ルートと目的地

出典：2013年明日香村観光実態調査

2. 明日香村の概要

(7) 住民意識

ア. 明日香村の住みごころ

「明日香村の住みごころ」について聞いたところ、「とても暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせると、全体では、75%以上になっている。

年代別で最も高かったのは 30～34 歳代で、「とても暮らしやすい」、「どちらか」と暮らしやすい」を合わせて、86.9%、次いで、40～44 歳代で 84.7%、60～64 歳代で 83.2%の結果であった。

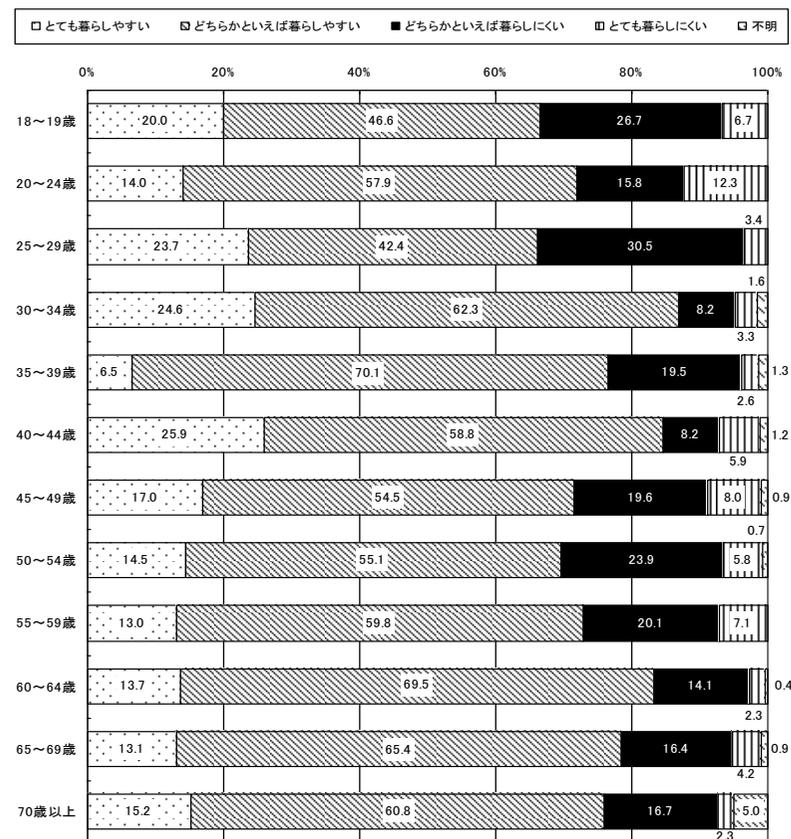
イ. 明日香村の誇り

明日香村のどのようなところに誇りを感じるか、を聞いたところ、「わが国で初めて律令国家が形成された時代の政治の中心」が 37.4%で最も多く、次いで「万葉集に謳われた由緒ある風景」が、28.9%の順であった。

ウ. 明日香村への居住意向

「明日香村に住み続けたいか」について聞いたところ、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」を合わせると、全体では80%以上になっている。

年代別で最も高かったのは 40～44 歳代と 60～64 歳代で、「住み続けたい」、「どちらか」と住み続けたい」を合わせて、ともに 86.2%、次いで、30～34 歳代で 82.7%、などすべての年代で定住意向は高い結果であった。



年齢別「住みごころ」に対する意向

出典：平成 25 年明日香村住民アンケート調査

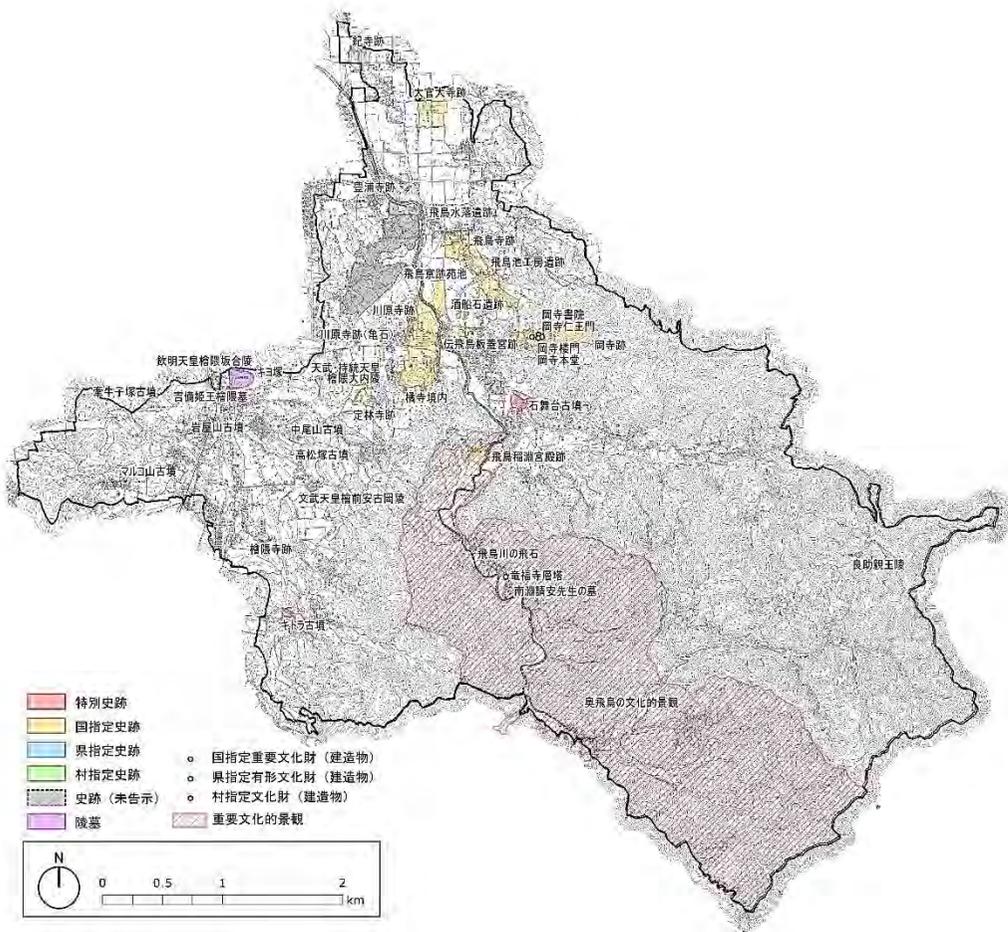
エ. 規制について

「規制を感じる」と答えた方に、どういう時に規制を感じるかを聞いたところ、「住宅改修時の規制が最も多く 62.6%、ついで「許認可手続きが面倒」が、48.5%、「建築や改修費用が高い」が 41.4%の結果であった。

2. 明日香村の概要

(8) 地域資源

明日香村の地域資源としては、石舞台古墳など国指定特別史跡や史跡、奥飛鳥の重要な文化的景観など古代史を語る数多くの文化財ならびに田園景観を中心とした景観資源があげられる。



明日香村の主な史跡等の分布

出典：明日香村歴史文化基本構想

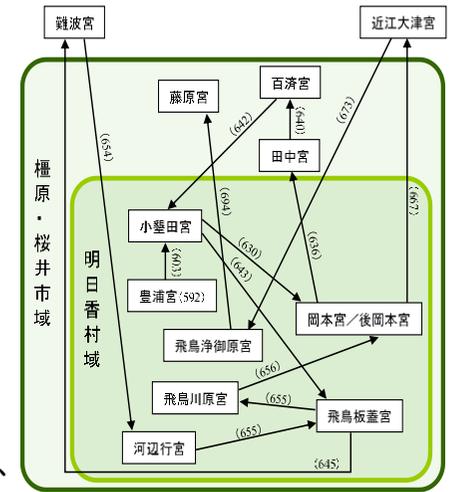
◆文化財

● 宮殿と関連施設

推古天皇が豊浦宮で即位したことで、飛鳥時代が幕を明ける。推古天皇は推古 11 年（603）に小墾田宮に新宮殿を建設して遷した。次の舒明天皇は飛鳥寺南方の飛鳥岡本宮に、皇極天皇は、飛鳥板蓋宮へと宮を遷した。この飛鳥板蓋宮は乙巳の変の舞台となり、孝徳・天智朝には一時的に宮殿は飛鳥を離れることもあった。しかし、斉明天皇の後飛鳥岡本宮、天武天皇の飛鳥浄御原宮をはじめ、飛鳥時代の大半を通じて、宮は明日香村を中心とした飛鳥地域において営まれた。

これらの宮域の中には、苑池や各種官衙がある。特に、内郭の北西に隣接して、広大な苑池が広がっており、噴水石造物や中島などがみられた。また島庄遺跡では一辺約 40m の方形池が見られる。

官衙と考えられる遺跡としては、飛鳥寺の北西には漏刻施設である水落遺跡や、噴水石造物をもつ迎賓館の石神遺跡があり、飛鳥寺の西に位置する飛鳥寺西方遺跡には、『日本書紀』において「飛鳥寺西槻」と記される広場との関連が指摘される石敷を施した空間が広がる。また、その北方に隣接してある飛鳥池工房遺跡は、富本銭をはじめ金・銀・銅・鉄・ガラス・玉・瓦など各種製品を作っていた飛鳥時代最大の総合工房である。



宮の変遷



飛鳥宮跡

2. 明日香村の概要

○ 終末期古墳

飛鳥地域は、特色ある古墳が多く築かれた地域でもある。この地域の群集墳としては飛鳥南東の細川谷古墳群がある。横穴式石室を主体とする総数 200 基の古墳群である。

この中には打上古墳や上5号墳、組合式石棺をもった堂の前塚古墳などが注目される。また、この古墳群の西端にあたる場所には、巨石を用いた一辺 52mの方墳である石舞台古墳や都塚古墳などが位置する。

これらは6世紀後半から7世紀初頭にかけての終末期前半の古墳であるが、7世紀中頃から8世紀初頭にかけての終末期後半の古墳は飛鳥南西地域に集中する。

それは天武持統天皇陵（野口王墓）を北東の隅として、その南西に広がる。天武持統陵のある谷は、欽明天皇陵（梅山古墳）・カナヅカ古墳・鬼の俎雪隠古墳と東西に並び、飛鳥の皇統譜との位置づけもなされている。

梅山古墳は明日香村内では唯一の前方後円墳であるが、東西尾根の南側に築かれており、終末期古墳の立地を色濃く反映している。つまり、大和最後の前方後円墳はまさに終末期古墳と一部重なるのである。

カナヅカ古墳は岩屋山式の横穴式石室をもつと考えられ、一辺 60mの段上にある。鬼の俎雪隠古墳は石英閃緑岩を割り抜いた石槨で、東側に隣接して同2号墳があったとされる。

野口王墓は八角形の墳形をもち、石室内に夾紵棺と骨蔵器があったとされ、現在比定されている天皇陵では、その比定の正しさが唯一指摘されているもの



石舞台古墳

である。

この南方には同じ八角形墳である中尾山古墳がある。中尾山古墳の南の尾根の南斜面には、円墳で凝灰岩切石を組み合わせた横口式石槨をもち、内部に四神・人物像などの壁画の描かれた高松塚古墳がある。さらに南方 1.2 kmには同構造で壁画のあるキトラ古墳が位置している。

一方、高取川の左岸では凝灰岩の削抜き式石槨をもつ八角墳である牽牛子塚古墳があり、夾紵棺や七宝亀甲形座金具や玉類が出土するとともに、古墳南東側に隣接して越塚御門古墳が存在するなど、斉明陵の有力な候補となっている。

高松塚古墳・キトラ古墳と同構造の石室をもつマルコ山古墳では、壁画は描かれていないが、墳形は多角形墳をしている。マルコ山の西方には結晶片

岩を用いた石室を有するカツマヤマ古墳や、東方にはテラノマエ古墳があり、両古墳の石室中央には棺台が備え付けられている。

さらに南方には凝灰岩の切石を家型に組み上げた石室をもち、八角形墳である東明神古墳がある。



牽牛子古墳の外観



高松塚古墳壁画 西壁女子群像

2. 明日香村の概要

○ 飛鳥の石造物

飛鳥の東方丘陵上には謎の石造物と呼ばれる酒船石があり、これを取り巻くように石垣が巡っている。この北側の谷底には亀形石槽の導水施設があり、天皇祭祀の場とする。飛鳥京跡苑池から庭園の噴水施設の石造物群が出土、石神遺跡では迎賓館の噴水施設である須弥山石・石人像が出土している。その他にも猿石など多くの石造物が存在する。これらは斉明朝の一時期に製作されたと推定されているが、その性格については明確でないものも多い。



亀石

○ 社寺

明日香村内には、最古の寺とされる飛鳥寺をはじめ、岡寺、川原寺などの歴史的文化的遺産が保存されている。また、大陸との交流を物語る檜前寺講堂跡などのように、史跡として保存されている寺や阿知使主神夫妻二柱を祭神とする於美阿志神社などのように地域の歴史を継承する神社も数多く見られる。



於美阿志神社本殿



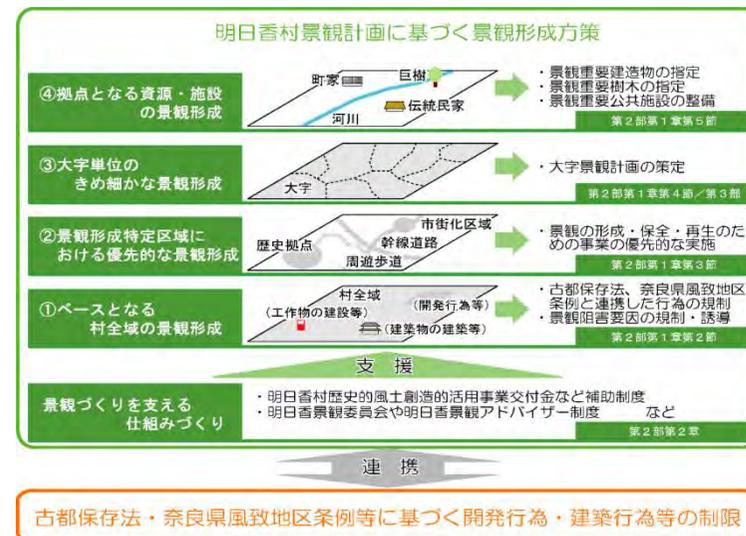
大陸との関係を物語る
檜隈寺講堂跡

◆ 景観

古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法や風致地区条例、景観条例などにより、国民共有の財産である明日香村の歴史的風土の保存に取り組んできた。このことにより、甘樫丘などの歴史的な視点場からの眺望景観、史跡などの歴史的要素が周辺と調和した景観、農地・集落・丘陵・山地が調和した景観、棚田里山などのふるさと景観が維持されている。



明日香村の景観



明日香村の良好な景観の形成・歴史的風土の保存

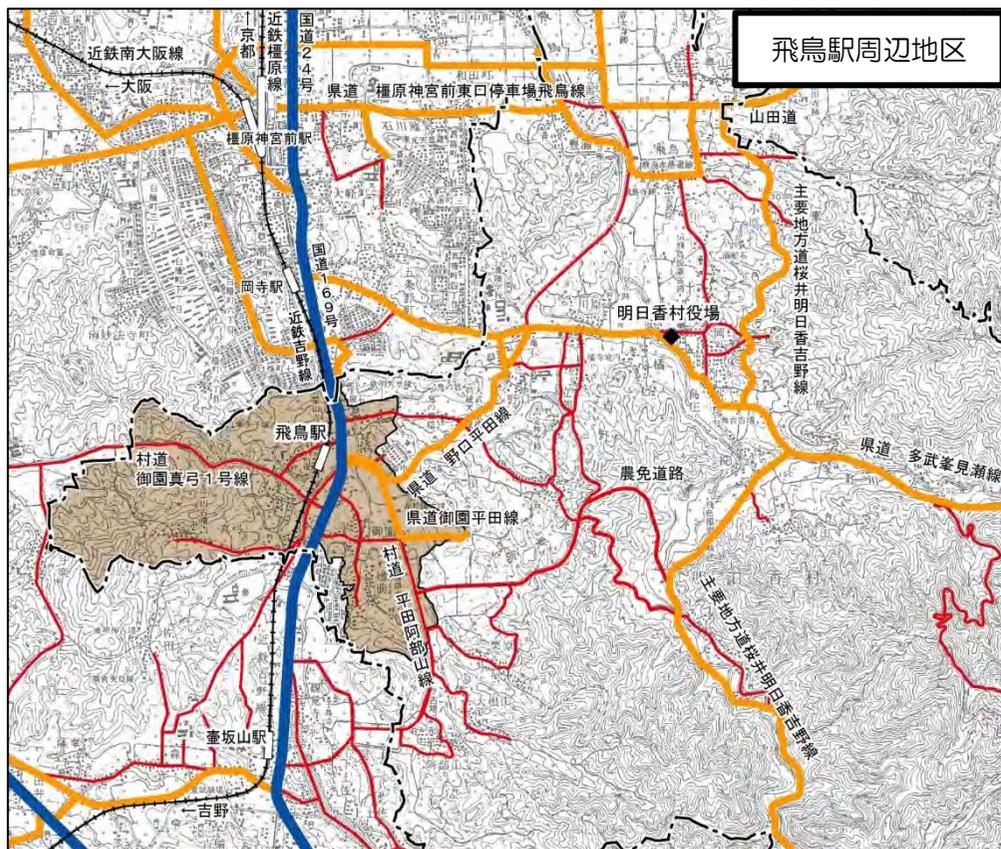
明日香村景観形成方策

出典：明日香村景観計画

3. 飛鳥駅周辺地区の位置づけ

「飛鳥駅周辺地区」は、御園、檜前、越、真弓、地の窪、下平田の各大字を含み、明日香村の玄関口である近鉄吉野線飛鳥駅、国道169号などによる交通結節点であるとともに、市街化区域を含む地域として、明日香村の活性化の中心となる地区である。

また、近鉄飛鳥駅西側は、「王家の谷」とも呼ばれる終末期古墳が集積する歴史的文化的に重要な地域である。



飛鳥駅周辺地区 鉄道 国道 県道 村道など

(1) 上位計画における位置づけ

①第4次明日香村総合計画（平成22年～31年）

◆市街地形成ゾーン

村づくりの担い手となる住民を積極的に誘導し、村の玄関口として良好な居住地環境の創出を図るゾーン

◆集落地形成ゾーン

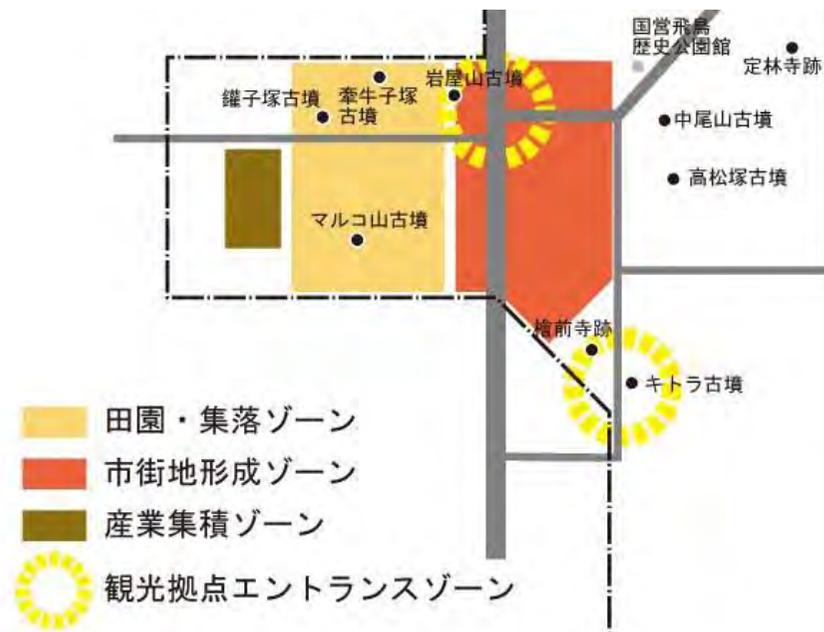
良好な集落地を形成するゾーン

◆産業集積ゾーン

景観改善と産業創出のため産業施設の集積を図るゾーン

◆観光拠点エントラスゾーン

交通・情報提供の拠点機能を持ち、観光来訪者を出迎え、明日香を楽しんでいただくための拠点となるゾーン



3. 飛鳥駅周辺地区の位置づけ

②明日香村歴史文化基本構想

<歴史文化交流ゾーン>

【位置づけ】

古代、数多くの渡来人が移り住み、大陸の文化を伝えた地であり、檜隈寺や呉原寺などの渡来系氏族の寺院や古墳、また四神等を描いた高松塚古墳やキトラ古墳など、古くからの他地域との交流を物語る痕跡が数多く残された地域である。近年は、「体験・学習・交流・協働」を基本方針とした国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備、また、牽牛子塚古墳の整備や西飛鳥地域の活性化に向けた検討が進められ、さらに畑の八百屋さんなどの地域住民が主体となったむらづくりの取り組みが積極的に行われ、観光・交流の拠点としての新たな展開がみられる。

【取組方針】

東アジアとの交流からはじまる国内外との交流が作りだしてきた歴史文化の特徴を活かし、「美し“あすか”」を軸とした新たな交流の拠点ゾーンと位置付け、史跡や公園、農業などの産業を中心とした体験学習の充実や周遊観光の活性化に向けた取り組みを進めるなど、「日本人の心のふるさと」に係る関連文化財群の保存・活用を重点的に推進する。

(2) 地区の立地特性

- 明日香村の玄関口として利用されている近鉄吉野線飛鳥駅があり、国道169号が地区を南北に結び交通拠点となっている。
- 定住化促進のため住宅創出が可能な市街化区域がある。
- 村の魅力を活かし、事業の拡充や起業を行いやすい環境づくり、働く場づくりを行なうための「阪合にぎわいの街特別用途地区」を設定している。
- 村の産業活性化と雇用創出を図るため、「産業集積ゾーン」を設定している。

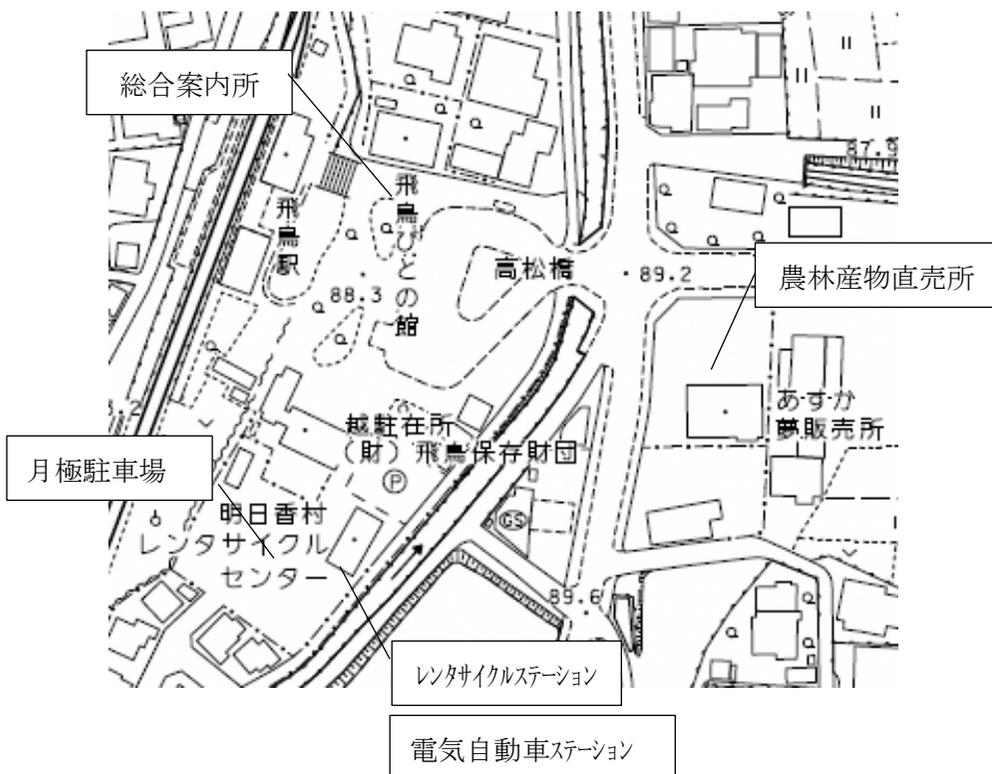


4. 飛鳥駅周辺地区の現状と課題

(1) 村の玄関口としての現状と課題

課題1：村の玄関口としての機能が充実していない

- 明日香村の玄関口として、総合案内所（飛鳥びとの館）、農林産物直売所が立地するが、村全体の周遊観光を誘導できる機能が不足している。
- 鉄道駅、バスやタクシー乗り場、レンタサイクルや電気自動車貸出があり、交通拠点となっているが、自転車や徒歩、公共交通等で周遊できるよう、交通手段の転換がスムーズにできる環境が整っていない
- 来訪者が、休憩できる機能（トイレなど）の不足や情報収集ができる機能が充実していない。
- 車での来訪者のための、駐車スペースが不足している。



飛鳥駅前広場



電気自動車



明日香周遊バスによる観光



総合案内所



農林産物直売所

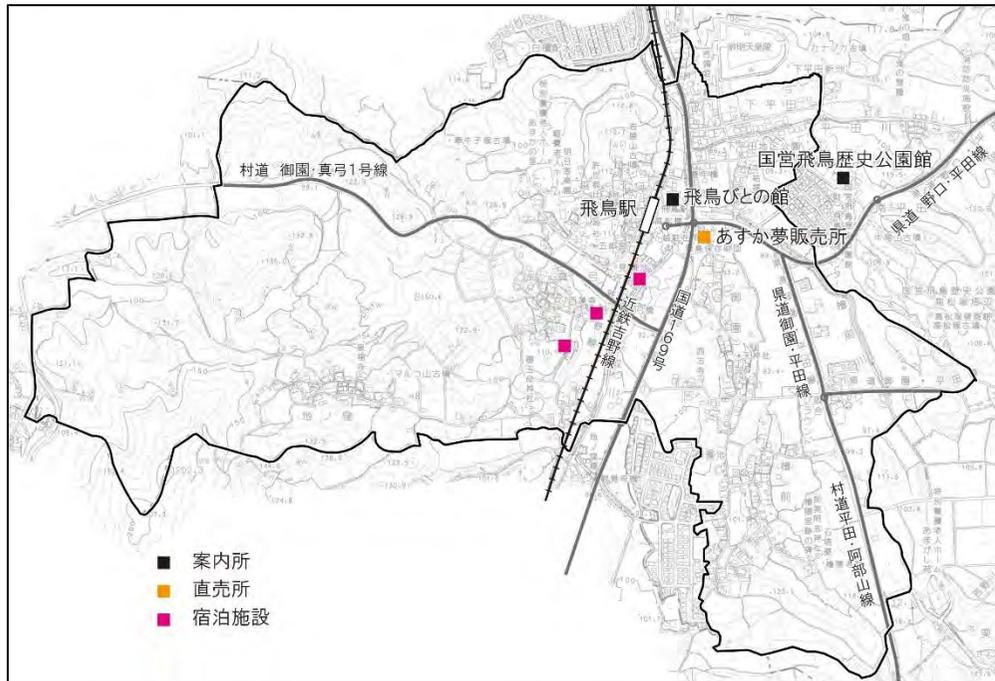


4. 飛鳥駅周辺地区の現状と課題

(2) 観光客受入施設の現状と課題

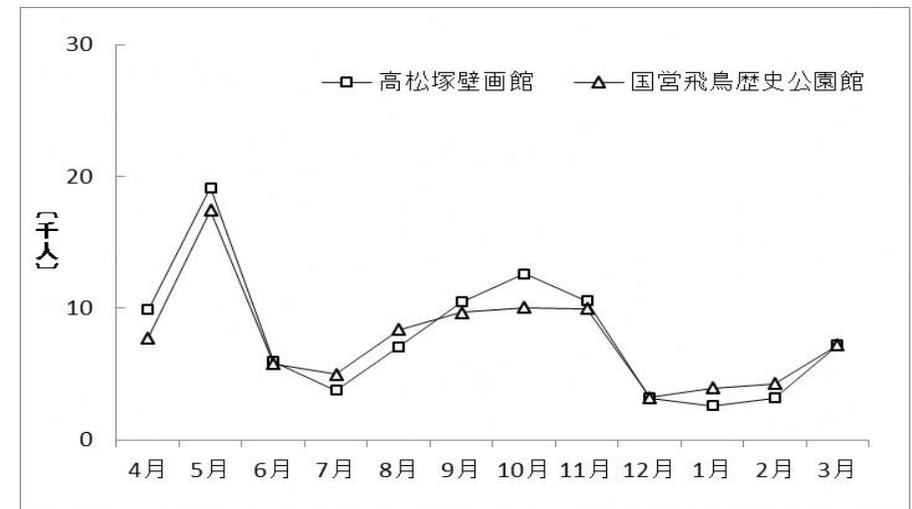
課題2：交流人口拡大のための観光客受入施設が不足している

- 宿泊施設は、この地区内にペンションが1件、1棟貸しの宿泊施設が1件、農家民宿が1件立地する。村全域では、民宿が9件、研修施設が2件、その他3件立地する。しかし、全12室を要するペンションが最も大きな宿泊施設であり、全体として、宿泊室数が不足している。また、新たな観光客層を取り込むための施設が必要であるとともに、これまでの飛鳥観光以外の志向に対応した宿泊施設が必要と考えられる。



宿泊施設等の分布

- 地区内の有料施設等観光客数（平成27年度）をみると、高松塚壁画館が約95,000人、国営飛鳥歴史公園館が約92,000人である。
- 年間の観光動向をみると、春（4月～5月）および秋（9月～11月）に集中しており、特に5月が1年のピークとなっているが、夏季、冬季の利用者が少なく季節変動の大きさが課題となっている。
- 農産物直売所が立地し、周辺住民が有効利用している。また、観光客もお土産品の購入場所として活用している。観光客利用としては、飛鳥びとの館も立地する。しかし、駅から村内観光地への沿道に店舗などが不足している。
- 市街化区域の第1種住居地域や阪合にぎわいの街特別用途地区、産業集積ゾーンの設定をしているが、有効に活用できていない。



地区の有料施設の月利用動向(平成27年度)

出典：明日香村資料

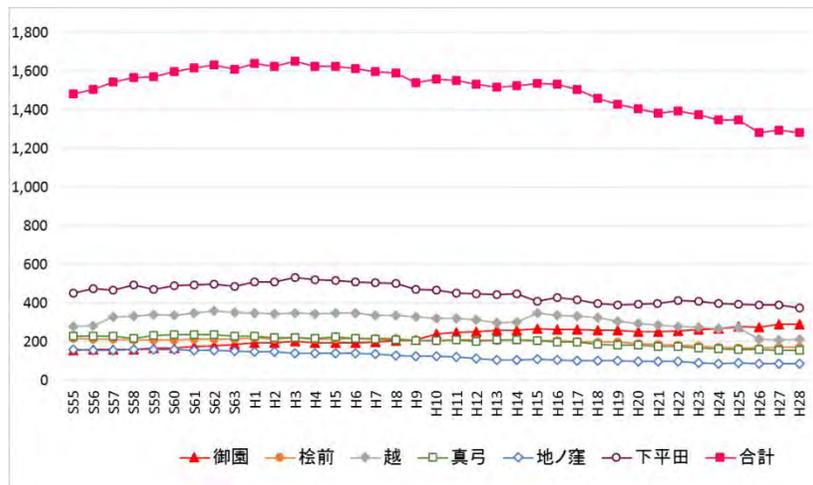
4. 飛鳥駅周辺地区の現状と課題

(3) 定住促進の現状と課題

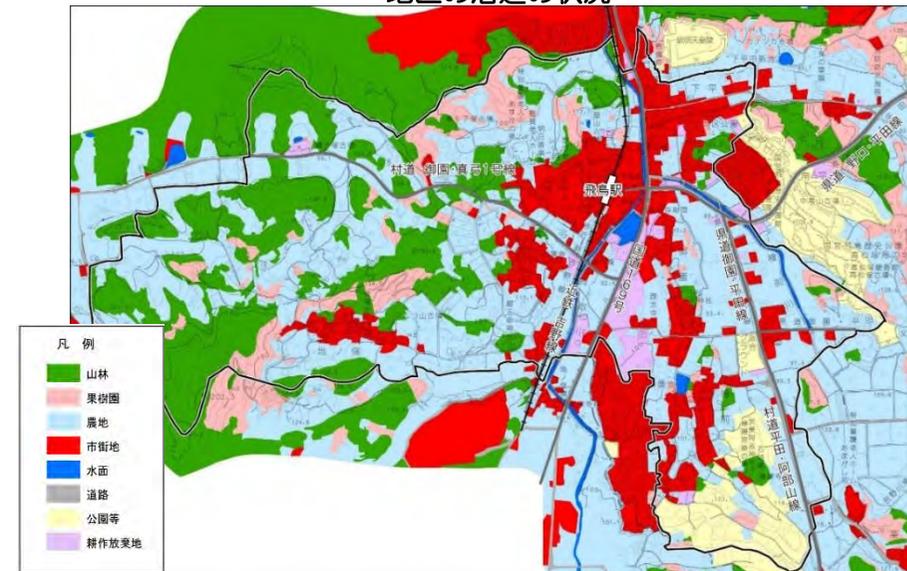
課題3：定住促進を図るための居住空間や雇用の場が不足している

- 村は、人口減少に加え、高齢化の進行により地域活力の低下が危惧されている。特に、団塊ジュニアの世代の割合が近隣市町に比べ低くなっており、少子化の拍車にも繋がっている。しかし、当地区の御園大字では、人口増加傾向にあり、飛鳥駅周辺地区における定住空間の需要があることが伺える。

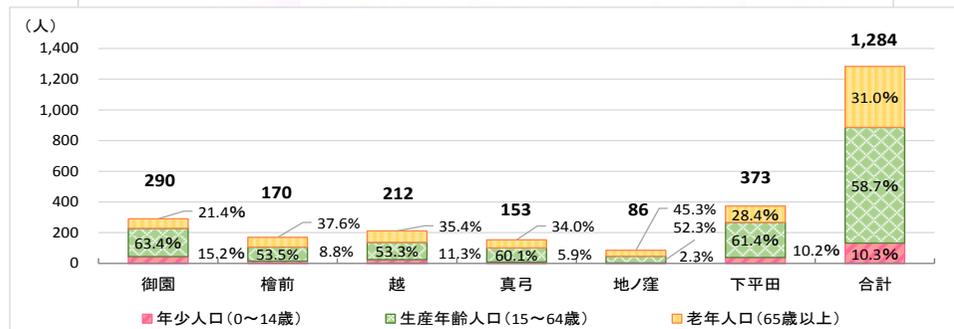
- 村は、市街化区域が限定され、また、景観に関する様々な規制が係っていることから住宅建設が非常に困難である。当地区は市街化区域を有し、住宅創出が可能な地区であるが、農地が広がっており、住宅立地が進んでいない。
- 地区内に生活利便性を高める商業機能が不足している。
- 定住促進を図るためには、働く場が必要であるが、村内企業の現立地箇所での事業拡大などは難しく、事業拡大を可能にすることや新たな企業誘致が必要である。



地区の沿道の状況



地区の土地利用



地区の人口動態

出典：明日香村資料

4. 飛鳥駅周辺地区の現状と課題

(4) 地域資源の現状と課題

課題4：価値ある歴史文化資源や農の取組などを有効に活用できておらず周辺市町とのネットワークも不十分である

- ・当地区には、牽牛子塚古墳やマルコ山古墳、岩屋山古墳、真弓鐘子塚古墳、檜隈寺があり、周辺には、高松塚古墳やキトラ古墳、与楽鐘子塚古墳、益田岩船など多くの貴重な歴史文化資源が存在する。しかし、その歴史文化資源を周遊

指定種別	種別		名称	指定等年月日	管理者(管理団体)	所在大字	備考(寄託施設・面積等)
国宝	有形文化財	美工(絵画)	高松塚古墳壁画	昭 49. 4. 17	文化庁	平田	国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設
重文	有形文化財	建造物	於美阿志神社石塔婆附 供養具	明 42. 4. 5/昭 45. 6. 17 追加	大字檜前 大字檜前	檜前 奥山	於美阿志神社 飛鳥資料館
史跡	記念物	史跡	牽牛子塚古墳・越塚御門古墳	大 12. 3. 7/平 26. 3. 18 名称変更・追加	明日香村	越	11,557 m ²
史跡	記念物	史跡	岩屋山古墳	昭 43. 5. 11	(明日香村)	越	1,125 m ²
史跡	記念物	史跡	マルコ山古墳	昭 57. 1. 16/平 20. 7. 28 追加	(明日香村)	真弓	3,029 m ²
史跡	記念物	史跡	檜隈寺跡	平 15. 3. 25		檜前	7,611 m ²

するためのモデルコースや周遊路の整備、便益施設の整備が不十分である。

- ・当地区では、遊休地を増やさないための取組として、駅に近い立地を活かし、集落営農組織により、購入者が野菜を収穫し購入できる取組など行われており、農を活用した取組の充実を期待出来る。こうした取組を、農地の活用による新たな魅力づくりの体験メニューとして、企業誘致などと連携を図り、新たな観光客層の獲得を目指す必要がある。



地区の農資源と営農活動



5. 地区の現状と課題を踏まえた飛鳥駅周辺地区のまちづくり基本方針

まちづくりのテーマ

～交通拠点を活かした交流とにぎわいのまちづくり～

まちづくりの目標

◆新しい交流拠点を核とする活気あるまちづくり

飛鳥駅周辺を道の駅などとして、新たな交流拠点機能を高める。

◆若い世代の定住による次世代型まちづくり

飛鳥駅周辺という立地を活かし、公有地を核とした住宅地整備や産業集積ゾーンへの企業誘致による若い世代が定住できる新しいまちづくりをめざす。

◆交流人口拡大を目指すまちづくり

歴史環境、自然環境を活用し、滞在型の体験が可能となるよう、宿泊施設や観光客向け商業施設等の誘致を進める。

◆農と文化財を活用したまちづくり

終末期古墳を中心とした歴史文化資源ならびに農の取組みの活用、周辺市町とのネットワーク路構築を通じた地域の活性化を進める。

地区の現状と課題

<課題1> 村の玄関口としての機能が充実していない

<課題2> 交流人口拡大のための観光客受入施設が不足している

<課題3> 定住促進を図るための居住空間や雇用の場が不足している

<課題4> 価値ある歴史文化資源や農の取組などを有効に活用できておらず周辺市町とのネットワークも不十分である

まちづくりの基本方針

方針1：村の玄関口としての機能の充実

方針2：交流人口拡大のための観光客受入施設整備

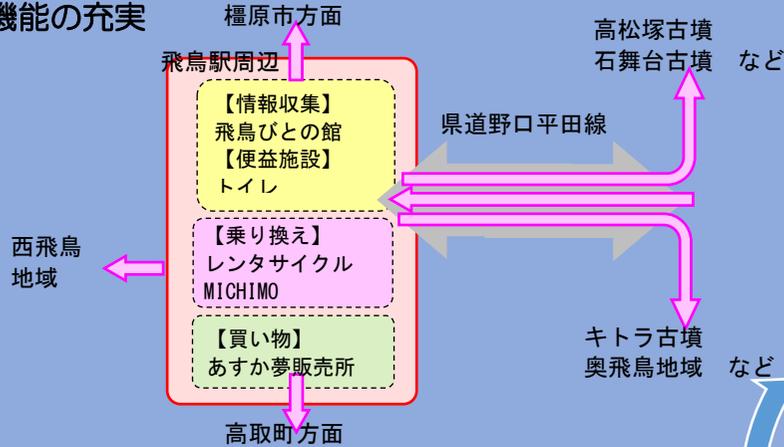
方針3：定住促進を図るための居住空間や雇用の場の創出

方針4：価値ある歴史文化資源や農の取組みなどの有効活用

6. 飛鳥駅周辺地区まちづくりイメージ

■ 村の玄関口としての機能充実

- ◆ 駅前広場を中心とした「道の駅」の整備と村の玄関口としての機能の充実



施設
整備

■ 定住促進を図るための居住空間や雇用の場の創出

- ◆ 阪合地区公有地を活用した次世代型モデル住宅地整備
- ◆ 産業集積ゾーンへの企業誘致の促進
- ◆ 国道沿いへの生活利便のための商業施設等の立地誘導



モデル住宅地整備イメージ

施設
誘導

■ 交流人口拡大のための観光客受入施設誘導

- ◆ 産業集積ゾーンへの新たな観光客層を取り込む宿泊施設の誘致促進
- ◆ 阪合地区にぎわいの街特別用途地区への観光客向け商業施設の誘致促進



企業誘致パンフレット

地区
整備

にぎわい
創出と
地域
活性化

連携
整備

■ 価値ある歴史文化資源や農の取組等の有効活用

- ◆ 牽牛子塚古墳及び周辺の環境整備
- ◆ 農地の活用による新たな魅力づくりの充実
- ◆ 周辺市町との周遊ルートの構築
- ◆ 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区へのバスルートの構築



牽牛子塚古墳整備イメージ

7. 飛鳥駅周辺地区まちづくりでおこなう事業(案)

■村の玄関口としての機能充実

- ◆駅前広場を中心とした「道の駅」の整備と村の玄関口としての機能の充実
 - ・駐車スペースや便所など利用しやすい環境整備 (H29~)
 - ・総合案内所の周遊案内機能を高めるためのリニューアル整備 (H29~)

■定住促進を図るための居住空間や雇用の場の創出

- ◆阪合地区公有地を活用した次世代型モデル住宅地整備
 - ・同意施行型土地区画整理により市街化区域空閑地の有効活用と若者定住を図る (H29~)
- ◆産業集積ゾーンへの企業誘致の促進
 - ・企業誘致におけるアクセス道、上下水道などインフラ整備 (H29~)
 - ・税制などの優遇措置 (H29~)
- ◆国道沿いへの生活利便のための商業施設等の立地誘導

■交流人口拡大のための観光客受入施設誘導

- ◆産業集積ゾーンへの新たな観光客層を取り込む宿泊施設の誘致促進
 - ・星野リゾート誘致におけるアクセス道、上下水道などインフラ整備 (H29~)
- ◆阪合地区にぎわいの街特別用途地区への観光客向け商業施設の誘致促進

■価値ある歴史文化資源や農の取組等の有効活用

- ◆牽牛子塚古墳及び周辺環境整備
 - ・国指定史跡牽牛子塚古墳・越塚御門古墳整備 (H29~)
- ◆農地の活用による新たな魅力づくりの充実
- ◆周辺市町との周遊ルートの構築
 - ・新沢千塚古墳群(橿原市)や与楽罐子塚古墳(高取町)など近隣市町の歴史資源と連携した周遊ルートの検討(H29~)
- ◆国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区へのバスルートの構築
 - ・近鉄飛鳥駅から国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区への奈良交通バスの運行委託(H28~)

8. 飛鳥駅周辺地区まちづくり構想図

